不登校生徒への支援の在り方に関する研究

教育相談室　池田浩二　渡部勇樹　一色芳枝
大砂直樹　宇都宮由紀　冨田和宏
研究協力者　愛媛大学教育学部教育臨床准教授
相模健人

1　研究の目的

文部科学省の調査によると、全体の児童生徒数は減少しているにもかかわらず不登校児童生徒数は増加している。また、不登校児童生徒数の内訳を見ると、小学校に比べ、中学校に占める割合が高く、不登校生徒への支援をどのように充実させるかは、学校が抱える喫緊の課題となっている。その解決のためには、ケース会議を開催して、組織的に不登校生徒を支援するなど、「チームとしての学校」の機能を生かした取組が必要であると考える。

そこで、本研究では、不登校生徒の社会的な自立を目指し、学校復帰を促進することを目的として、２か年継続の研究を行うこととした。本年度は、不登校サポートチームの支援を行うことで、不登校生徒への効果的な支援の充実に向けた研究を行う。

2　研究の内容

⑴　不登校の支援に関する実態調査

県内公立中学校を対象に、不登校生徒への支援に関するアンケート調査を実施した。調査結果から、ケース会議で不登校支援シートを活用している学校が少ないことが分かった。また、ケース会議に関する教職員研修の実施が少ないことやケース会議の開催が不定期であること、ケース会議に心理や福祉の専門家が参加する場合が少ないことについて、その実態を把握できた。

⑵　不登校サポートチームへの支援

ア　不登校支援シートの作成・活用

作成した不登校支援シートは、共通シート、学年別シート、ケース会議記録シート、支援策経過・評価シートの４種類である。共通シートは、中学校３年間を通した活用を目的に、不登校生徒の基本的な情報を記入できるように作成した。学年別シートは、月別の出欠席の状況や学期ごとの不登校の状況など、不登校生徒の現在の状況が記入できるように作成した。ケース会議記録シートは、会議の流れに沿って記録してくことを目的として作成した。支援策経過・評価シートは、不登校生徒の支援の方向性を確認したり、支援方法の追加・変更を記録したりできるように作成した。

イ　ケース会議の充実

⑺　ケース会議についての教職員研修

協力学校教職員を対象に研修を行った。研修内容は、「チームとしての学校」の意義、不登校支援シートの使用方法、ケース会議の具体的な運営方法等とした。

⑴　ケース会議の運営

ケース会議は、関係教職員、心理や福祉の専門家、関係機関職員が参加し、学期に１回開催する「拡大ケース会議」と生徒指導部が中心となって月に１回程度開催する「通常ケース会議」の２種類を設定した。また、ケース会議のスムーズな運営に向けて、ケース会議の進行表や座席配置図を提案した。

3　研究のまとめ

不登校サポートチームへの支援を行うことにより、対象生徒に好ましい変容が見られ始めたことから、ケース会議の充実を図るための提案は、不登校生徒への効果的な支援につながったと考える。一方、不登校生徒への効果的な支援のためには、不登校生徒を取り巻く環境の整備が重要であることも確認できた。これらを踏まえて、次年度は、不登校生徒への支援を継続させるとともに、対象生徒が集団に入りやすくするための支持的風土を持つ集団の育成について研究に取り組んでいきたい。